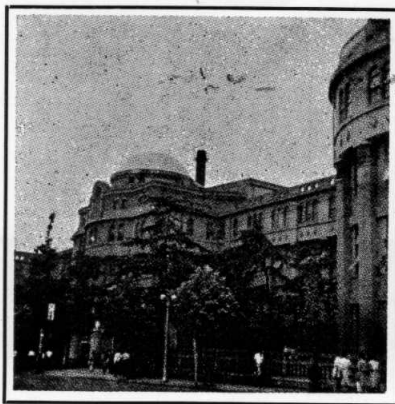


Harmonica Concert

meiji univ.

76th



明治大学校歌

◇ 作詞 児 玉 花 外
◇ 作曲 山 田 耕 笹

1. 白言なびく駿河台眉秀でたる若人が
撞くや時代の暁の鐘文化の潮みちびきて遂げし維新の榮になふ
明治その名ぞ我等が母校明治その名ぞ我等が母校
2. 権制自由の揺籃の歴史は古く今もなほ
強き光に輝けり独立自治の旗翳し高き理想の道を行く
我等が健児の意気をば知るや我等が健児の意気をば知るや
3. 靈峰不二を仰ぎつつ刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望ありいでや東亜の一角に時代の夢を破るべく
正義の鐘を打ちて鳴らさむ正義の鐘を打ちて鳴らさむ

明治大学ハーモニカ・ソサエティーの歴史

わが明治大学ハーモニカ・ソサエティーは、大正7年に佐藤時太郎氏を中心に結成され、翌8年春、小石川植物園においてわが国で最初の合奏が同氏の指揮の下に演奏されました。そしてわが国ハーモニカ界の元老川口章吾先生（現在当ソサエティー顧問）を迎えて指揮育成を受け、1年余の準備と練習を積み、第1回発表演奏会が大正9年10月28日、神田YMCAホールにて開催されました。演奏会は絶賛を博して大成功のうちに無事終了し、ここに当ソサエティーは世の中に第一歩を踏み出したのです。当時は国産ハーモニカの種類も少なく、メロディハーモニカ、バリトン、バス、コントラバス、オクターブの5種類に過ぎず、合奏といっても5部合奏程度で、わが国ハーモニカ合奏の黎明期においては止むを得ないことでした。また、このころ明大には校歌がなかったのですが、当ソサエティーの幹部鈴木重吉氏等の尽力により、山田耕笹作曲による現在の明治大学校歌が生まれたのです。大正12年の関東大震災をへて大正13年ころより、今までの曲に飽き足らず、次第に高踏的なものを演奏すべく半音ハーモニカを併用し、序曲、歌劇などに手を染め初めたのです。そして部員一同監督指揮者の命を良く守り、規律を重んじ、一条乱れぬ団結の結果、ハーモニカ界において第一人者としての不動の地位を築き上げたのです。その後数度の戦争に際し、危機に直面することもありましたが、音楽に対する情熱と、ソサエティーに対する愛情とにより、ますます発展の一途をたどってまいりました。ハーモニカの種類もいろいろ変り、昭和39年には従来の複音ハーモニカを全廃しシングル・ハーモニカに変えました。年々、ソサエティーの気風も変遷していますが、長い伝統の重みあるところへ、いわゆる終戦っ子、現代っ子も入部し、新旧の気質が入り混り、そこに現在の輝かしい伝統が形成されつつあります。来年は創立50周年を迎えるわけですが、またそこで新しい出発をしてゆきたいと思えます。



Meiji UNIV

HARMONICA

SOCIETY

第76回
定期演奏会

1968年11月21日(木) PM 6:00 神田共立講堂

